

国交正常化45周年 中国特集

中国シルクロード観光年2017



砂漠の中をラクダで散策できる敦煌の鳴砂山



高さ35.5mの仏像を保存する莫高窟の第96窟

新疆ウイグル自治区は中国の西北部にあり、カザフスタン、キルギス、タジキスタンなど八つの国と国境を接する。面積約166万平方キロメートル。中国の国土の約6分の1を占め、広大な領域を占める。アルタイ、天山、クンリンの三つの山脈が自治区を横切り、ジュンガル、タリムの二つの盆地が間に挟まれている。新疆の「疆」の字の右半分のような地形である。漢、ウイグル、モ...

新疆ウイグル自治区

広大な領域に数えきれぬ旧跡



世界遺産を構成する史跡、高昌故城



クズルガハ烽火台

中国国家観光局駐日本代表処

西域への起点「西安」、辺境の要塞「敦煌」



中国のほぼ中央に位置する陝西省。その省都であり、最大都市の西安(旧名・長安)は、秦、漢、唐など13王朝の都アテネ、ローマ、カイロとともに世界四大古都の一つとして知られ、遠く西域へとつながるシルクロードの東の起点となっている。西安には二つの世界遺産がある。一つが「秦の始皇帝陵と兵馬俑坑」、もう一つが「シルクロード」。長安・天山回廊の交易路網は、前者は1987年、後者は2014年に、ともに世界文化遺産に登録された。兵馬俑は1974年、農民が井戸を掘削していたところ、偶然発見したという。20世紀の考古学における最大の発見。秦の始皇帝が絶大な権力を誇示するため兵馬俑の塑像を焼成させた。その陵を守らせたといわれている。陪葬坑が多くあり、展示する博物館は総面積1万4263平方メートル。出土...

陝西省



今年2017年は日本と中国の国交正常化45周年。両国で多くの記念事業が予定されている。中国ではさらに、今年を昨年、一昨年に続き「中国シルクロード観光年」に制定。古くから東西文化の交流に重要な役割を果たしてきたシルクロードと、その沿道の観光資源を広くアピールする。「西安」「敦煌」をはじめ、シルクロード3省・自治区の主な観光魅力を紹介する。

省都西安に二つの世界遺産 兵馬俑と交易路関連史跡



武士俑約6千体が出土した世界遺産の兵馬俑坑



世界遺産の一つ、高さ64mの大雁塔(中央奥)



西安市内の五つのシルクロード世界遺産の一つ、小雁塔

甘肅省

甘肅省は中国北西部の内陸東部の長さ1600キロ、広さ45万平方キロという広大な領域で、長江、黄河という中国の二大川の流域が接近する場所に位置する。省都の蘭州はシルクロードの一つ河西回廊の入り口に当たる。ここから武威、張掖、嘉峪関、そして敦煌へと、約1千キロに及ぶ道が通る。その一つが高さ34.5...

石窟芸術の宝庫、砂漠の中の奇観

1969年、雷神をまつる廟で農民が井戸を掘っていたところ、後漢時代の將軍張掖、嘉峪関、そして敦煌の墓が発見された。墓室から231点の埋葬品が出た。その一つが高さ34.5...

敦煌は酒泉市の管轄にあり、1987年、世界文化遺産に登録された。最も有名なのは莫高窟で、砂漠の中に消滅した洞窟の遊覧が楽しめる。砂漠の中に3000年以上も枯れずに水をたたえる三ノ月型の池、月牙泉がある。省内のシルクロード関連世界遺産はほかに、麦積山石窟(天水)、炳靈寺石窟(蘭州)、鎮遠堡遺跡と墓群(酒泉)、玉門関・河倉城遺跡(敦煌)、懸泉遺跡(敦煌)。

400万の歴史を持つという天山一号水氷河氷雪、森林と草、珍しい石、放牧エリアなどで構成する南山風景区などの名所がある。カシュガルはシルクロードの南ルートと北ルートの接点に位置する新疆南部の政治、経済の中心。イスラーム教の古代建築物で中国最大のモスク、アイティガルモスク、新疆最大の農村貿易集散地、大バザールなど見どころがある。トルファンはシルクロード上の著名な観光都市。新しい世界遺産を構成する新疆東部の山間盆地にあり、真夏の気温は40度以上となることから「火洲」とも呼ばれる。僧の玄奘(三蔵法師)が経典を得るために西に...

向かう途中、仏教の講義をしたという高昌国の城郭都市、高昌故城と、戦国の末期から元代の旧都市の遺跡、交河故城はシルクロードの世界遺産を構成する史跡だ。クチャは天山の南麓にあり、新疆最大の烽火台群、クズルガハ烽火台や、キジル石窟、スパン山寺遺跡といたった世界遺産を構成する。三つの史跡がある。